

BLSOプロバイダーコース in北薩



昨今の周産期医療の崩壊に伴い、分娩施設や産科スタッフの減少は危機的な状況にあり、実際、全国消防本部に対するアンケート調査では、2010年の1年間には734件の病院外での分娩事例が存在している。

特に鹿児島県はへき地・離島地域を多く抱え、その状況は深刻であり、北薩地域においても済生会川内病院は、地域周産期母子医療センターとして、薩摩川内市をはじめ、北薩地域全体の周産期医療の最後の砦として多方面からの患者の受け入れを行っているが、当院までの搬送距離・時間延長とリスクの増大が指摘されている。

日常的に周産期医療に関わる、病院内での妊産婦救急を想定した、産科に関する実践的なプログラム advance Life Support in Obstetrics (ALSO) を元に、主に病院前産科救急を想定し、「産科救急に遭遇する可能性がある、プロバイダー全てが標準化されたコースを学び、救急救命士から救急部スタッフ、産科医へと連携をとることで妊産婦死亡・後遺症を減らすことができるのではないか」という観点に立ち、周産期のより切迫した内容へ対応するために基本的なトレーニングコースとして作成されたのが **Basic Life Support in Obstetrics (BLSO)** である。

日本におけるコース内容は、妊婦の評価・分娩介助・新生児蘇生・救急車内分娩・産後大出血であり、コースを受講し、試験に合格した場合は米国家庭医学会 (AAFP) と ALSO-Japan が認定する5年間有効な認定を受けることができる。



開催日時: H 30年 3月 3日(土)・4日(日)

08時30分～17時00分(予定)

※各1日間コースとして2日間 開催します

開催場所: 薩摩川内市 済生会川内病院

主催: 済生会川内病院

共催: NPO 法人周産期支援機構(OPPIC)

田島産婦人科

受講対象: 救急隊員、看護師、医師、学生など

受講料: 10,000円

受講定員: 各日 12名 (3日か4日のいずれかを受講)



公式テキスト: 受講決定後、教育提供サイトからダウンロード

購入推薦図書:

『日本版救急蘇生ガイドライン2015に基づく新生児蘇生法テキスト』

田村正徳(監修)メジカルビュー社

『病院前救護のための産科救急トレーニング』

新井隆成監訳 中外医学社

【申し込み・連絡先】

済生会川内病院

産婦人科 松尾 隆志

麻酔科 日高 帯刀

助産師 臼木 結子

電話: 0996-23-5221

E-mail: hokusatublso@yahoo.co.jp

【講習スケジュール(予定)】

講習内容	時間
受付	8:30-8:45 (15分)
イントロダクション	8:45-9:10 (25分)
分娩介助	9:10-10:10 (60分)
新生児蘇生	10:20-11:20 (60分)
女性傷病者の評価	11:30-12:50 (80分)
昼食	12:50-13:20 (30分)
試験準備	13:20-13:50 (30分)
筆記試験・実技試験・ 救急車内分娩 症例検討	13:50-16:50 (180分)
クロージング	16:50-17:00 (10分)

※定員に達したため、受講申し込みは締め切っております。